

ステキな景色をパシャリ

#自分だけの

1コマ

市内で見かけるさまざまな景色。一人一人、お気に入りの景観があるはず。鈴鹿市景観計画の改定にあたり募集した「自分だけの1コマ」写真の中から、写真展（3月初旬）に使用した市内の景観写真を紹介します。

※現在は募集していません。



ひと・まち・モータースポーツ

鈴鹿大生が鈴鹿8耐クラス優勝に輝く

広報すずか3月5日号の本コーナーで紹介した鈴鹿大学3年生の吉田愛乃助さん(20歳 徳島県出身)が、「鈴鹿8時間耐久ロードレース」(鈴鹿8耐)決勝レースでSSTクラス優勝を獲得し、総合で17位の戦果を収めました。

SSTとは「スーパーストック」の略で、改造が制限されたマシンで戦うクラス。総合優勝を争うEWC(世界耐久選手権)クラスより性能は若干低いのですが、マシンの差が出にくくライダーの技量やチームの総合力が問われるクラスで、激戦が展開されます。各クラスが一齐に走る鈴鹿8耐の、今年のSSTクラスへの参加は、46台中14台でした。吉田さんは所属チーム「TONE RT SYNCEDGE 4413 BMW」の一員としてドイツ製バイク「BMW M1000RR」を駆り、無事に大役を果たしました。

レース後間もない8月2日に市長を表敬訪問し、喜びの報告を行った吉田さん。参戦中の全日本ロードレース選手権シリーズ後半戦での健闘を誓うとともに、「次なる夢は世界への挑戦」と声を弾ませました。



▲優勝トロフィーを手に末松市長と共に

なかの よししげ

■中野能成 (鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード

「職人は黙々と作業し、多くを語らない人」という勝手なイメージを抱いて、今号の特集の取材に向かいました。取材先は、表紙に登場した伊勢型紙の道具彫り職人である今坂千秋さんのご自宅。作業場に笑顔で迎え入れられ、気さくに伊勢型紙の魅力について話される様子は、当初抱いていた職人のイメージとずいぶん違います。

実際に彫っているところを撮影する場面になると雰囲気が一変、机に向かい真剣に型紙を彫る表情と姿は私が思い描く職人そのものでした。撮影後、「弟子が作ってくれたんです」とうれしそうに机に置かれた色鮮やかな道具入れを見せてくれた今坂さんは、元の優しい顔に。

伝統の技を極め後世に伝えること、そして周りへの感謝や心遣いを大切にすること。職人の生き方に触れた取材でした。(由)

